

2022/03/17

教育の潮流と新課程の大学入試

教育ジャーナリスト

後藤健夫

最初にお願い

問いを持つ 「大局観」 メタ認知から批判的思考へ

これからの若者を取り巻く状況

課題先進国だが、課題“解決”先進国ではない

未曾有の少子高齢化 生産年齢人口の減少 複雑化する国際社会
地方消滅の危機 コロナによるパンデミック
人工知能の進化 消える職業

そんな時代ゆえに若者には自己肯定感が必要

教員の自己肯定感が高くなければ生徒児童の自己肯定感は高くない
期待して褒める『GRIT（やり抜く力）』アンジェラ・ダックワース

大学で成績の良い学生

学習習慣 GRIT

これからの時代

グローバル化	デジタル化・AI化	課題の複雑化	課題山積
英語	プログラミング	STEAM	課題解決能力
自然言語	人工言語	越境・学際	課題解決

教育の潮流

脱・正解主義 脱・自前主義 脱・予定調和 脱・一律一斉

人工知能の進化 Society 5.0 デジタル・トランスフォーメーション(DX)

教育はいまだにSociety 3.0 求められる脱・工場モデル

正解は一つ ノルマをひとりでごなす 時間による能力測定と評価 一律一斉

最善解・納得解 協働 成果・達成度 個別化・多様化

主体的な学び

能動的学習 ↔ 受動的学習

「教える」から「学ぶ」へ 学習者主体 個別化、多様化と向き合う

高度に発達した一律一斉授業からの脱却

問題解決に向けた課題設定と最善解 批判的思考 思考の訓練

存在感をなくす日本のビジネスパーソン

私大文系はいつまで必要とされるのか

大学の学部再・拡充（教育未来創造会議） 産業構造の転換

「豊かな授業」とは

個別化・多様化のなかで

学力の3要素と知識爆発

学び方を学ぶ メタ学び

概念を学ぶ メタ認知 構造的な理解 具体と抽象の往還 思考の転移

知識をため込むだけではなく、知識を活用する

「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」

探究・好奇心・やりがい

探究 好奇心 やりがい

やりがいを支える評価

経験から学ぶ

経験から得たものを「個人の成長」に結びつけているか

CAS(創造性・活動・奉仕)の評価

経験学習サイクル 計画→行動→観察→振り返り…

観察して構造を理解する 具体的な経験を抽象化する
抽象化した経験を別の経験に転移する

新課程大学入試を迎えるにあたって

大学入学共通テスト 知識の活用 雑多な情報から必要なものを抽出する
「問い」を持つのは生徒ばかりではない
進路指導のアンラーン 一般選抜を「一般」にしない
カリキュラムの再構築 文理選択は一般選抜への最適化に過ぎない
「言語と感性」を軸に捉え直す 「英語」は思考とスキル
「経験から学ぶ」ことの習慣化 探究学習 思考の訓練 構造化・抽象化・転移

授業で心がけたいこと

良いインプットは良いアウトプットを生む 日常の対話の質を上げる
授業は「生徒の時間」

なんのための教育なのか

バーチャル（デジタル）から抜け落ちるリアル
技術は日進月歩 スキルはAIに置き換わる

いま、何を学ぶか

いますぐに役立つもの 一生役立つようなこと

教育の目的は何か

WellBeing 若者の未来のために 未来を共有する 若者に寄り添う

参考資料

「生徒が高度な教育を受けたかどうかは、試験で何点取れたかではなく、まったく新しい状況で何ができるかによって確かめられる」（国際バカロレア 初代事務局長 アレック・ピーターソン）
Sue Bastian, Julian Kitching, Ric Sims（著），後藤健夫（編集），大山 智子（翻訳）『セオリー・オブ・ナレッジ—世界が認めた「知の理論」』ピアソンジャパン，2016年

「予測不能な課題を乗り越えることができる学習者，すなわち意欲の強さと情熱とを発揮できる人材をどのように育てればよいのであろうか？ このことを考える上で，教育者にとってジレンマなのは，最も教えやすく，最もテストしやすいスキルというのは，最もデジタル化，自動化，外部委託に

移行しやすいスキルでもあるという事実である」(OECD教育・スキル局長 アンドレアス・シュライヒャー)

＜教育の4つの次元＞

- ・ 知識 knowledge 何を知り、何を理解しているか
- ・ スキル skills 知識をどのように使うか
- ・ 人間性 character どのようにふるまい、世界とどのように関わるか
- ・ メタ学習 meta-learning どのように自分自身を振り返るか、自らの目標に向け学びや成長を続けようとするか

C. ファデル, M. ビアリック, B. トリリング (著), 岸学 (監訳), 関口貴裕・細川太輔 (編訳), 東京学芸大学次世代教育研究推進機構 (訳) 『21 世紀の学習者と教育の4 つの次元—知識, スキル, 人間性, そしてメタ学習』北大路書房, 2016 年

「デジタルは曖昧を許さないんです。だから、自分が何をしたいのか、自分で定義して選ぶ。それは、選ばなかったものを捨てるということです。これこそがデジタル・トランスフォーメーションの本質で、単純にアナログをデジタルにすることじゃないんです。24時間365日、起きているときも寝ているときも問われるようになるんです」(クロサカタツヤ)

「クロサカタツヤのネオビジネスマイニング」 第89回 最悪の年を乗り越え22年は夜が明ける、その時に僕らは人生の取捨選択を迫られる 月刊サイゾー 2022年1・2月号

「ヒトではなく、電子を走らせる。電子は疲れない」

「ヒトとデジタルにはそれぞれ得意不得意がある。創造性や柔軟性などにおいてはヒトの優位は動かない。しかしながら、ことデジタルが得意とするタスク、とくに、ソフトウェアとしてルール化・定型化できる大半の業務については、もはやヒトに勝ち目があるはずもない」

プレジデント社 企画編集部「経営企画研究会」『“なぜ”デジタルなのか』プレジデント社, 2018年 (アマゾン 内容紹介より)

立命館アジア太平洋大学 95カ国・地域からの学生数 https://www.apu.ac.jp/home/about/content250/211101_Student_Enrollment_by_CountryRegion.pdf

2019年度APU国際学生の平均英語スコア (学部学生出願時)

国・地域	IELTS	TOEFL iBT
中国 China	6.0(51人)	83(25人)
韓国 Korea	6.3(17人)	88(57人)
タイ Thailand	6.2(53人)	76(3人)
ベトナム Vietnam	7.0(150人)	89(3人)
インドネシア Indonesia	6.7(143人)	89(49人)
インド India	6.9(18人)	86(4人)
ウズベキスタン Uzbekistan	6.6(55人)	—
台湾 Taiwan	6.5(14人)	82(11人)
ネパール Nepal	6.4(5人)	88(4人)
ミャンマー Myanmar	6.5(11人)	—
バングラデシュ Bangladesh	6.6(65人)	—
モンゴル Mongolia	6.7(16人)	90(13人)
スリランカ Sri Lanka	7.1(12人)	—

* 中等教育課程を英語で受けたもの (インター等) は、英語スコアの提出不要。

以上